

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-16740

(43)公開日 平成8年(1996)1月19日

(51)Int.Cl.⁹

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 K 17/00

F

19/07

// G 0 6 F 17/60

G 0 6 K 19/ 00

H

G 0 6 F 15/ 21

3 4 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 12 頁)

(21)出願番号

特願平6-143631

(22)出願日

平成6年(1994)6月24日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 飯島 康雄

神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社

東芝柳町工場内

(72)発明者 河田 美樹

神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社

東芝柳町工場内

(72)発明者 川岸 敏之

神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社

東芝柳町工場内

(74)代理人 弁理士 須山 佐一

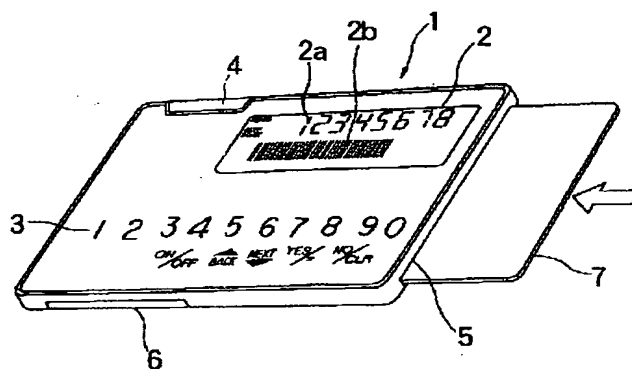
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 携帯可能な情報処理装置及び情報処理システム

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 従来に比べて効率的に情報を処理することのできる携帯可能な情報処理装置及び情報処理システムを提供する。

【構成】 信号処理機1は、テレビ受信機のCRTから送信される光信号によるシリアルデータを、受光器4により受信し、これを電気信号に変換して記憶するとともに、所望によりこの情報をICカード挿入口5に挿入されたICカード7に格納可能なように構成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、メモリを内蔵したカードを受け入れる受け入れ手段と、上記記憶手段に記憶している情報を選択する選択手段と、上記選択手段により選択された情報を上記受け入れ手段により受け入れたカードのメモリに書き込む書き込み手段とを具備したことを特徴とする携帯可能な情報処理装置。

【請求項 2】 放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、メモリを内蔵したカードを受け入れる受け入れ手段と、この受け入れ手段により受け入れたカードのメモリに上記記憶手段に記憶している情報の書き込み及びカードのメモリからの情報の読み出しを行う書き込み読み出し手段と上記記憶手段に記憶している情報及びカードのメモリに記憶されている情報を選択する選択手段と、上記選択手段により選択された情報を表示する表示手段とを具備したことを特徴とする携帯可能な情報処理装置。

【請求項 3】 上記表示手段は情報を文字表示するとともに、文字に対応する情報を機械読取り可能なマークとして表示することを特徴とする請求項 2 記載の携帯可能な情報処理装置。

【請求項 4】 上記表示手段にて文字を表示するかマークを表示するかを選択する表示選択手段を有し、この表示選択手段の選択結果に基づき文字表示若しくはマーク表示を行うことを特徴とする請求項 3 記載の携帯可能な情報処理装置。

【請求項 5】 放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶している情報を選択する選択手段と、上記選択手段により選択された情報を表示する表示手段とを有する第 1 の装置と、上記表示手段により表示されている情報を読取る読取手段と、この読取手段により読取った情報に基づき取引を実行する手段とを具備した第 2 の装置とからなることを特徴とする情報処理システム。

【請求項 6】 放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶している情報を選択する選択手段と、メモリを内蔵したカードを受け入れる受け入れ手段と、この受け入れ手段により受け入れたカードのメモリに上記

選択手段により選択された情報を書き込む書き込み手段とを有する第 1 の装置と、上記カードのメモリに記憶されている情報を読取る読取手段と、この読取手段により読取った情報に基づき取引を実行する手段とを具備した第 2 の装置とからなることを特徴とする情報処理システム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【産業上の利用分野】 本発明は、携帯可能な情報処理装置及び情報処理システムに係り、特に、商品販売あるいは役務提供の価格の割引情報等に関する取引情報を処理するための携帯可能な情報処理装置及び情報処理システムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】 従来から、例えば雑誌や新聞の折込み公告等に、商品販売あるいは役務提供の価格の割引に関する情報を、いわゆる割引クーポン券等として流布し、このクーポン券等を持参した顧客に対してのみ、特別な価格の割引を行う取引形態が知られている。

【 0 0 0 3 】 また、このような取引形態においては、割引クーポン券等に、例えば顧客の住所、氏名等を書かせ、これを回収することによって、顧客情報を得ることも行われている。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】 上述したように、従来においては、割引クーポン券等の紙を用いて情報の提供及び回収等を行っており、その処理に手間がかかるという問題がある。

【 0 0 0 5 】 本発明は、かかる従来の事情に対処してなされたもので、従来に比べて効率的に情報を処理することのできる携帯可能な情報処理装置及び情報処理システムを提供しようとするものである。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】 請求項 1 記載の携帯可能な情報処理装置は、放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、メモリを内蔵したカードを受け入れる受け入れ手段と、上記記憶手段に記憶している情報を選択する選択手段と、上記選択手段により選択された情報を上記受け入れ手段により受け入れたカードのメモリに書き込む書き込み手段とを具備したことを特徴とする。

【 0 0 0 7 】 請求項 2 記載の携帯可能な情報処理装置は、放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、メモリを内蔵したカードを受け入れる受け入れ手段と、この受け入れ手段により受け入れたカードのメモリに上記記憶手段に記憶している情報の書き込み及びカードのメモリからの情報の読み出しを行う書き込み読み出し手段と上記記憶手

10

20

30

40

50

段に記憶している情報及びカードのメモリに記憶されている情報を選択する選択手段と、上記選択手段により選択された情報を表示する表示手段とを具備したことを特徴とする。

【0008】請求項3記載の携帯可能な情報処理装置は、請求項2記載の携帯可能な情報処理装置において、上記表示手段は情報を文字表示するとともに、文字に対応する情報を機械読取り可能なマークとして表示することを特徴とする。

【0009】請求項4記載の携帯可能な情報処理装置は、請求項3記載の携帯可能な情報処理装置において、上記表示手段にて文字を表示するかマークを表示するかを選択する表示選択手段を有し、この表示選択手段の選択結果に基づき文字表示若しくはマーク表示を行うことを特徴とする。

【0010】請求項5記載の情報処理システムは、放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶している情報を選択する選択手段と、上記選択手段により選択された情報を表示する表示手段とを有する第1の装置と、上記表示手段により表示されている情報を読取る読取手段と、この読取手段により読取った情報に基づき取引を実行する手段とを具備した第2の装置とからなることを特徴とする。

【0011】請求項6記載の情報処理システムは、放送信号を受信する受信装置から送られてくる情報を非接触方式で受信する受信手段と、この受信手段により受信した情報を記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶している情報を選択する選択手段と、メモリを内蔵したカードを受け入れる受け入れ手段と、この受け入れ手段により受け入れたカードのメモリに上記選択手段により選択された情報を書き込む書き込み手段とを有する第1の装置と、上記カードのメモリに記憶されている情報を読取る読取手段と、この読取手段により読取った情報に基づき取引を実行する手段とを具備した第2の装置とからなることを特徴とする。

【0012】

【作用】上記構成の携帯可能な情報処理装置及び情報処理システムによれば、従来割引クーポン券等の紙を用いて行っていた情報の提供及び回収等を、電気的な信号として取扱うことが可能となり、より多くの情報をより効率的に処理することができる。

【0013】

【実施例】以下、本発明の詳細を、図面を参照して実施例について説明する。

【0014】図1～図3は、本実施例の携帯可能な情報処理装置としての信号処理機1の外観構成を示すもので、これらの図に示すように、信号処理機1の表面には、液晶表示装置等からなる表示部2と、キー入力部3

が設けられており、側面部には、受光器4、ICカード挿入口5等が設けられている。なお、6は電池収納部、7はICカードである。

【0015】また、上記表示部2には、情報を文字、数字等で表示する文字表示部2aと、バーコードで表示するバーコード表示部2bが設けられている。

【0016】図4は、上記信号処理機1の機能構成を示すものである。同図に示すように、信号処理機1は、外部からの光信号を受信するための受光部10、受信した光を電気信号に変換する光電変換部11、本信号処理機内の諸機能を制御するCPU12、CPU12の動作プログラムを格納するROM15、プログラム動作の際の処理結果を一時的に記憶しておくとともに受光部10からの信号を記憶するためのRAM16、信号処理機の使用履歴及び固有情報、例えば、ICカードへの書込み回数及び内容、所持者情報等を記録するためのEEPROM17、RAM16の内容等を表示するためのLCD13、LCD13にデータを表示するためのドライバ14、ICカード7との電気的接続を行うためのコンタクト18、キーボード19、及びバッテリー20等で構成されている。

【0017】図5は、ICカード7の外観構成を示すもので、ICカード7は、CPUを内蔵したICモジュール30、磁気ストライプ31、エンボス文字32を有するカードである。信号処理機1は、図2、図3に示したように、このようなICカード7を挿入できるようになっており、信号処理機1にICカード7を挿入し、ICカード7の接点33を介して、ICカード7のデータを読み書きすることができるように構成されている。

【0018】また、信号処理機1は、図6に示すように、テレビ受信機40のCRTから送信される光信号41によるシリアルデータを、信号処理機1の受光器4により受信し、これを電気信号に変換して記憶するとともに、所望によりこの情報をICカード7に格納可能なように構成されている。

【0019】なお、テレビ受信機40より発せられる光信号は、テレビ画像の輝度あるいは色を変調して発せられるもので、情報としては、例えば、視聴者に与えられる得点情報、日付時刻情報、番組情報等がある。

【0020】次に、信号処理機1の活性化手順を、図7を参照して説明する。

【0021】まず操作者は、信号処理機1の表面のキー入力部3に設けられた「ON/OFF」スイッチを押下することにより、起動を行う。このときCPU12は、当該スイッチの押下により電池収納部6に収容された内部バッテリーから電源を供給されることによって起動がかり、まず周辺素子の初期化を行い(101)、これとともに自己診断チェックを行う(102)。

【0022】このとき異常であると判断した場合には、LCD13に異常を示すメッセージを表示する(10

3)。

【0023】一方、正常であると判断した場合には、ICカードを挿入するよう指示するメッセージを表示し、ICカード挿入待ち状態になる(104)。

【0024】この状態においてICカード7が挿入された場合には、CPU12はこれを検出し、ICカード7を活性化してICカード7から送信される初期応答データを受信する(105)。

【0025】そして、受信した初期応答データを参照して、挿入されたICカード7が適合カードであるか否かを判断する(106)。

【0026】もし適合しない初期応答データを受信したり、あるいは初期応答データが受信できなかった場合には、カード不適合を意味するメッセージを受信し、カードへの電気信号供給を停止する(107)。そして、信号処理機1自身が停止し、本処理機の活性化前の状態に戻る。

【0027】次に、挿入されたICカード7を用いて、操作者の暗証番号を照合する手順を図8を参照して説明する。

【0028】まずCPU12は、暗証番号を信号処理機1に入力するためのメッセージを表示し、暗証入力待ち状態になる(110)。

【0029】これに応じて操作者は、信号処理機1の表面のキー入力部3に設けられたテンキーを使用して自身の暗証番号を入力する。CPU12はこれを検知すると、接続されているICカード7に対しこの暗証番号を送信することにより、暗証照合を要求する。ICカード7はこの要求を受信すると、カード内部に格納されている暗証番号と入力された暗証番号とを比較し、その比較結果を信号処理機に出力する(111)。

【0030】信号処理機1は、ICカード7から比較結果を受信すると、まず応答データから比較結果を判断し、ICカード7内部に格納されている暗証番号と入力された暗証番号とが一致し照合が正常と判断された場合は、その旨の表示を行い、後述する次の処理を行う(112)。

【0031】一方、上記判断の結果、不一致を示す応答データを検知した場合には、暗証番号不一致のメッセージを表示すると共に、再度、暗証番号入力を促すメッセージを表示する(113)。また、応答データが、当該暗証番号の不一致の許容回数を超過したことを意味していた場合には、本カードは使用不可能であることを示すメッセージを表示すると共に、ICカード7に対しての電気信号供給を停止する(114)。

【0032】次に、信号処理機1によってテレビ受信機40から受信したデータ列を、ICカード7に格納する手順の第1の例を、図9を参照して説明する。

【0033】上述したように、暗証番号の照合処理において、入力された暗証番号とICカード7内部に格納さ

れている暗証番号とが一致した場合、CPU12は、その旨の表示を行い、この後、キー入力部3のテンキー(1又は2)及びそれに続いて「YES/=」キーが押下されることを待つ(120)。

【0034】この状態で、当該キーが押下されると、テレビ受信機40から信号処理機1に送信されている光信号を受光部10より受信し、これにより得られるデータ列を、内蔵するRAM16の所定領域に順次格納する(121)。

【0035】このとき、先のテンキー押下処理において、テンキー「1」が押下されている場合には、受信したデータ列で所定のメモリ領域が一杯になった時に、格納処理を停止する。またテンキー「2」が押下されている場合には、所定領域が一杯になった場合に当該領域内のデータ列のうち、最旧のデータ列を消去しながら追記する。

【0036】そして、この様なデータ列格納処理の最中に、「NO/CLR」が押下されたことをCPU12が検出すると、CPU12はデータ列格納処理を停止し、RAM16の所定領域内に格納されたデータ列のうち、最新データ列を表示部2の文字表示部2aに表示する(122)。

【0037】この状態で、キー入力部3の「BACK」キーを押下する度に、データ列の格納順番の逆の順番で順次データ列が表示される。この動作は最旧のデータ列が表示されるまで行われる。また、この状態において、「NO/CLR」キーを押下すると、その時表示部2に表示されていたデータ列がRAM16上から消去され、次のデータ列が表示される。この操作により、RAM16の所定領域に格納されているデータ列の内、不要となるデータ列を消去し、必要とするデータ列のみをRAM16に残すことができる(123)。

【0038】次に、操作者が「YES/=」キーを押下すると、これをCPU12が検出する(124)。そして、RAM16の所定領域に残されたデータ列が存在するか否かを確認する。もしデータ列が存在しない場合は、この旨を意味するメッセージを表示し、一方、データ列が存在する場合は、これらのデータ列を順次、ICカード7に書き込む(125)。

【0039】次に、信号処理機1によってテレビ受信機40から受信したデータ列を、ICカード7に格納する手順の第2の例を、図10を参照して説明する。

【0040】前記した第1の例と同様に、入力された暗証番号とICカード7に格納されている暗証番号が一致していた場合、CPU12は、暗証番号が一致していることを示すメッセージを表示すると共に、キー入力部3のテンキー(1又は2)及びそれに続いて「YES/=」キーが押下されることを待つ(130)。

【0041】この状態で、当該キーが押下されると、テレビ受信機40から信号処理機1に送信されている光

号を受光部 1 0 より受信し (1 3 1) 、これにより得られるデータ列を、表示部 2 に順次表示する (1 3 2) 。

【 0 0 4 2 】そして、この状態において「YES / =」キーを押下すると (1 3 3) 、その時点で表示されているデータ列を内蔵する RAM 1 6 の所定領域に格納する (1 3 4) 。

【 0 0 4 3 】このとき、先のテンキー押下処理において、テンキー「1」が押下されている場合には、受信したデータ列で所定のメモリ領域が一杯になった時に、格納処理を停止する。またテンキー「2」が押下されている場合には、所定領域が一杯になった場合に当該領域内のデータ列のうち、最旧のデータ列を消去しながら追記する。

【 0 0 4 4 】また、この様なデータ列格納処理の最中に、「NO / CLR」が押下されたことを CPU 1 2 が検出すると、CPU 1 2 はデータ列格納処理を停止し、RAM 1 6 の所定領域内に格納されたデータ列のうち、最新データ列を表示部 2 の文字表示部 2 a に表示する (1 3 5) 。

【 0 0 4 5 】この状態で、キー入力部 3 の「BACK」キーを押下する度に、データ列の格納順番の逆の順番で順次データ列が表示される。この動作は最旧のデータ列が表示されるまで行われる。また、この状態において、「NO / CLR」キーを押下すると、その時に表示部 2 に表示されていたデータ列が RAM 1 6 上から消去され、次のデータ列が表示される。この操作により、RAM 1 6 の所定領域に格納されているデータ列の内、不要となるデータ列を消去し、必要とするデータ列のみを RAM 1 6 に残すことができる (1 3 6) 。

【 0 0 4 6 】次に、操作者が「YES / =」キーを押下すると、これを CPU 1 2 が検出する (1 3 7) 。そして、RAM 1 6 の所定領域に残されたデータ列が存在するか否かを確認する。もしデータ列が存在しない場合は、この旨を意味するメッセージを表示し、一方、データ列が存在する場合は、これらのデータ列を順次、IC カード 7 に書き込む (1 3 8) 。

【 0 0 4 7 】上述したようにして、IC カード 7 内に格納されたデータ列は、以下の手順に従って照会することが可能である。

【 0 0 4 8 】まず、上述した IC カード 7 へのデータ列書き込み処理を終了するために、図 9、図 1 0 に示した各手順を終えた後に、「NO / CLR」キーを押下し、次にテンキーの「1」を押下して、続いて「YES / =」キーを押下する。

【 0 0 4 9 】これを信号処理機 1 の CPU 1 2 が検知すると、CPU 1 2 は、暗証番号入力を促すメッセージを表示する。これにより、先に説明した IC カードを使用した暗証番号の照合処理を行う。

【 0 0 5 0 】そして、IC カード 7 から、照合正常の応答データを CPU 1 2 が検知すると、次に、図 1 1 に示

すように、以下のようなカードアクセス処理を実行する (1 3 9) 。

【 0 0 5 1 】すなわち、まず、IC カード 7 に対してデータ列読み出し命令を送信する。IC カード 7 は、信号処理機 1 からのデータ列読み出し命令を受信すると、自身に格納されているデータ列が存在するか否かを判断する。そして、データ列が存在しない場合には、これを示す応答データを信号処理機 1 に出力する。また、データ列が存在する場合には、存在するデータ列を順次出力する。信号処理機 1 の CPU 1 2 は、IC カードからの応答データが、データ列であるかそれ以外かを判断する。もしデータ列であれば、これを順次 RAM 1 6 に格納し、かつ最新のデータ列を表示部 2 に表示する。また、データ列でなければ、IC カード 7 にデータ列が格納されていない旨のメッセージを、表示部 2 に表示する。

【 0 0 5 2 】このデータは、必要に応じて前述した RAM 1 6 内のデータ列確認／消去処理を行い、データ列の要否を確認する等の編集処理を行い (1 4 0) 、この後、操作者が「YES / =」キーを押下することにより (1 4 1) 、更新されたデータ列群を前述した手順に従って IC カード 7 に書き込むことができる (1 4 2) 。なお、先に述べた暗証番号を省略し、図 1 0 中の A の時点で IC カードを挿入し、情報の書き込みを行ってもよい。

【 0 0 5 3 】以上説明したように、信号受信・データ列書き込み処理により、IC カード 7 (ROM) 内には、信号処理機 1 によって外部から受信したデータ列が格納される。一方、IC カード内には、所持者情報として、所持者の氏名、生年月日、性別、住所等が格納されている。

【 0 0 5 4 】以下、カード所持者が上記 IC カード 7 を用いて、店舗等でサービスを受ける場合の具体例について説明する。

【 0 0 5 5 】例えば、カード所持者が店舗等に IC カード 7 を携帯し、図 1 2 に示すように、店舗に備えられた上述した信号処理機 1 及びバーコードリーダ 5 0 等を用いてサービスを受ける場合、あるいは、所持者自身が所有する信号処理機 1 を、店舗等に持参してサービスを受ける場合等がある。

【 0 0 5 6 】また、カード所持者が IC カード 7 のみを携帯し、店舗に備えられている図 1 3 に示すような専用の情報表示装置 6 0 の IC カード挿入口 5 に IC カード 7 を挿入し、カード内部のデータを表示部 2 に表示させ、同様のサービスを受けることが可能である。なお、情報表示装置 6 0 は据置き型であり、バーコードを読み取るための光スキャン部 6 1 を具備している。これで商品に印刷された商品コードを読み込み、対応するサービス情報が IC カード 7 に記録されていれば、それを表示する。

【 0 0 5 7 】さらに、店舗に、図 1 4 に示すような専用

の情報印刷装置 70 を設け、情報印刷装置 70 の IC カード挿入口 5 に IC カード 7 を挿入し、カード内部のデータを表示部 2 に表示及びレシート 71 に印刷させ、同様のサービスを受けることも可能である。レシート 71 にはバーコードおよび文字でサービス情報を印刷し、そのままサービスチケットとして使える。

【0058】以下では、所持者が店舗等に IC カード 7 を携帯し、信号処理機 1 によってサービスを受ける場合について図 15 を用いて説明する。

【0059】カード所持者は、信号処理機 1 の表面の「ON/OFF」スイッチを押下することにより、本処理機の起動をかけ、図 7、図 8 で説明した方法により、信号処理機 1 の活性化処理、カード挿入処理、および暗証番号照合処理を行う。

【0060】そして、暗証番号照合が成立した場合、CPU 12 は信号処理機 1 のテンキー、およびそれに続いて「YES/=」キーが押下されることを待つ (201)。

【0061】この状態で、カード内のデータ列を表示するためのキー (例えば「3」キー) が入力された後、「YES/=」キーが入力されたことを信号処理機 1 内の CPU 12 が検知すると、IC カード 7 に対してデータ列読み出し命令を送信し、IC カード 7 はこれを受信すると、自身の EEPROM 内に格納されているデータ列が格納されているか否かを判断する。そして、データ列が存在しない場合は、これを示す応答データを信号処理機 1 に出力し、データ列が存在する場合は、データ列を順次信号処理機 1 に出力する (202)。

【0062】信号処理機 1 の CPU 12 は、IC カード 7 からの応答データが、データ列であるかそれ以外かを判断する。そして、データ列であれば、これを順次 RAM 16 に格納し、かつ最新のデータ列を表示部 2 に表示する。一方、データ列でなければ、IC カード 7 にデータ列が格納されていないことを示すメッセージを表示する。この後カード所持者は、「BACK」キーまたは「NEXT」キーを押すことにより、サービスを受けようとする情報に関するデータ列を表示部 2 に表示させる (203)。

【0063】カード所持者は当該店舗で受けようとするサービスに関するデータ列を表示したところで、サービスを指定するキーを入力した後「YES/=」キーを押下する (204)。

【0064】信号処理機 1 はこれを検知した後、IC カード 7 に対して所持者情報の読み出し命令を送信する。IC カード 7 はこの命令を受信すると、自身の EEPROM 内に格納されている所持者情報が存在するか否かを判断し、存在する場合は、押下されたキーに対応する所持者情報を応答データとして、信号処理機 1 に出力する (205)。

【0065】信号処理機 1 がこれを受信すると、表示部

2 に表示されているデータ列と、受信した所持者情報データを合成した後 (206)、バーコードデータに変換して (207)、表示部 2 のバーコード表示部 2b に表示する (208)。

【0066】この状態において、店員はバーコードリーダー 50 を用いて、バーコード表示部 2b に表示されたバーコードデータを読み取る (209)。

【0067】読み取られたバーコードデータは店内の端末機に送信後格納され、当該データ内に含まれるデータ列が示すサービス内容の処理を行う他、同時にサービスを受けた IC カード所持者に関する所持者情報 (氏名・年齢・性別等) を IC カードから読み出し、これを蓄積することができる。

【0068】上記所持者情報により、当該店舗あるいはサービスを提供する会社において、顧客情報を効率的に蓄積し、管理することができる。

【0069】上記の例では、IC カード 7 から所持者情報全般を読み出してデータ列と合成したが、IC カード 7 から受信した所持者情報の中で、例えば性別情報を元に、サービスの内容を作成することも可能である。

【0070】例えば、表示部に表示されているデータ列と、IC カードから読み出した所持者情報内の性別情報より割引率を演算し (206)、これをバーコードデータに変換して (207)、バーコード表示部 2b に表示する (208)。これは、例えば、割引率を女性の場合は 30% 引き、男性の場合は 20% 引き等とする場合である。

【0071】また、IC カード所持者が受けたサービスの内容を IC カードの EEPROM にサービス履歴として格納し、これを以降のサービスに利用する場合の具体例を示す。

【0072】カード所持者が、当該店舗で受けようとするサービスに関するデータ列が表示されたところで (203)、このサービスを指定するキーを入力した後「YES/=」キーを押下すると、信号処理機 1 はこれを検知した後 (204)、IC カード 7 に対して現在表示部 2 に表示されているデータ列に対応したサービス履歴情報の読み出し命令を送信する (205)。

【0073】IC カード 7 はこの命令を受信すると、自身の EEPROM 内に格納されているサービス履歴情報の内、表示部 2 に表示されたサービスに対応する履歴情報が存在するか否かを判断し、存在する場合は、当履歴情報を応答データとして、信号処理機 1 に出力する。

【0074】信号処理機 1 は、応答データとして履歴情報を受信すると、過去に当該サービスを利用した回数をもとに今回のサービスの内容を作成し (206)、バーコードデータに変換して (207)、バーコード表示部 2b に表示する (208)。これは、例えば利用回数に応じて割引率を増加する場合等であり、より具体的には、過去に 1 回のサービスを受けているごとに、割引率

を3%ずつ増加するなどの演算を行う。逆に、過去に1回でも同じサービスを受けている場合、すなわち対応するサービスの履歴情報が1件でも存在する場合は、割引率を0にし、これをバーコードデータに変換して表示することもできる。

【0075】また、ICカード7のEEPROM内に所持者が受けられるサービスのグレードを示す情報(サービス種別情報と呼ぶ)を格納する場合の具体例を示す。

【0076】カード所持者が、当該店舗で受けようとするサービスに関するデータ列が表示されたところで(203)、このサービスを指定するキーを入力した後「YES/=」キーを押下すると、信号処理機1はこれを検知した後(204)、ICカード7に対して現在表示部2に表示されているデータ列に対応したサービス種別情報の読み出し命令を送信する(205)。

【0077】ICカード7はこの命令を受信すると、自身のEEPROM内に格納されているサービス種別情報が存在するか否かを判断し、存在する場合は、当情報を応答データとして信号処理機に出力する。

【0078】信号処理機1がこれを受信すると、表示部2に表示されているデータ列と、受信したサービス種別情報を用いてサービスの内容を作成し(206)、バーコードデータに変換して(207)、バーコード表示部2bに表示する(208)。サービスの内容は、例えば、グレードの高いサービス種別情報に対しては、割引率を高くする等の処理を行う。あるいは、同時に所持者情報をICカードから読み出しておき、所持者情報内の性別情報とサービス種別情報を組み合わせて、サービス内容を作成してもよい。

【0079】このようにICカード7から読み出して、表示部2に表示されたデータ列と演算合成される対象となる情報の種類については、上記ステップ204で入力されるサービスを指定するキーにより決定されてもよいし、また、対象となる情報が予めデータ列に含まれる内容により規定されており、信号処理機1がこれに従って自動的に処理することもできる。

【0080】また、上記で受けたサービスの内容は、ICカード7内のEEPROMにサービス履歴として追加書き込みされる。これは、バーコードリーダ50による読み出し(209)の後、サービス履歴書き込みを指定するキー(例えばテンキー5)が入力され、「YES/=」キーが押下されたときに(210)、信号処理機1からICカード7に対して表示部2のデータの書き込みを命令することにより実行される(211)。

【0081】あるいは、バーコードリーダ50が接続されている端末機より、サービス情報が光信号によるシリアルデータで発信され、信号処理機1の受光器4により受信し、これを電気信号に変換した後、ICカード7に書き込み命令を送ることにより実行されてもよい。

【0082】図16は、他の実施例として、据置型の信

号処理機1aの実施例を示すもので、この場合、テレビ受信機40から送信されるデータ列は、直接受信機と電氣的に接続されるケーブルにより受信する。本装置は、CATV等のデコーダと共有することが可能であり、また、ICカード7は、デコード機能を有効にするための鍵(スクランブルをはずすための鍵)の役割を果たすように構成することもできる。この場合、据置型の信号処理機1aにICカードを挿入し、CATVより送信される得点情報等をICカード7に自動的に書き込むことが可能である。

【0083】図17は、テレビ受信機40を遠隔操作するためのリモコン装置に、ICカード7に対するアクセス機構を設けた信号処理機1cの実施例(本実施例では、双方向通信型信号処理装置と呼ぶ)を示すものである。

【0084】なお、本実施例の信号処理機1cの場合、表面に設けられた「*」キー及び「#」キーが、前述した信号処理機1の「YES/=」キー及び「NO/CLR」キーにそれぞれ対応するようになっている。また、表示部2は、テレビ受信機40のCRTの一部(例えば、CRTの右下部分)が代用するようになっており、表示させたい情報は、テレビ受信機40のCRTの一部に表示される。

【0085】この信号処理機1cでは、受光器4をテレビ受信機40に向けて、光信号を受信し、受信したデータを発光器4cからテレビ受信機40に向けて送出し、表示することが可能であり、テレビ受信機40に受信したデータを表示させ、必要なデータを選択し、ICカード7に書き込む。

【0086】また、以上の実施例において、ICカード7に上記の情報を書き込む時に、信号処理機1は、自らが発生する日付時刻とテレビ受信機40から受けた日付時刻情報を比較し、同時刻である場合のみ、受信したデータは正当なデータであると判断し、書き込み処理を行うよう構成することもできる。

【0087】これにより、テレビ情報をビデオテープにより再生し、情報を偽造することは不可能となる。

【0088】また、ICカード7に情報を取得した番組に関する番組情報を、保存することにより、サービス提供者は、どの番組に得点情報を提供したほうが有効な情報となるかを同時に把握することが可能である。この場合、情報提供者は、ICカード7に保存してある個人情報(どんな人が)と、いつ、どのような番組をみていたかという情報を得ることができ、得点情報を利用する人の情報とともに、どの番組において、得点情報を提供するのがよいのかという情報を同時に得ることが可能となる。

【0089】さらに、上記実施例では、光あるいは電気信号から情報を得るようにした例について説明したが、例えばラジオ放送あるいはテレビ放送等の音から情報を

得よう構成することもできる。また、その情報伝達手段は光の他音でもよい。

【0090】なお、上記各実施例において、例えば、信号処理機1のキー入力部3のキーの種類、あるいはデータ処理の方法等については適宜変更可能であることはもちろんである。また、情報の出力は文字、バーコードの他、光、音、電波でもよい。

【0091】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の携帯可能な情報処理装置及び情報処理システムによれば、従来割引クーポン券等の紙を用いて行っていた情報の提供及び回収等を、電気的な信号として取扱うことが可能となり、より多くの情報をより効率的に処理することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の信号処理機の外観構成を示す図。

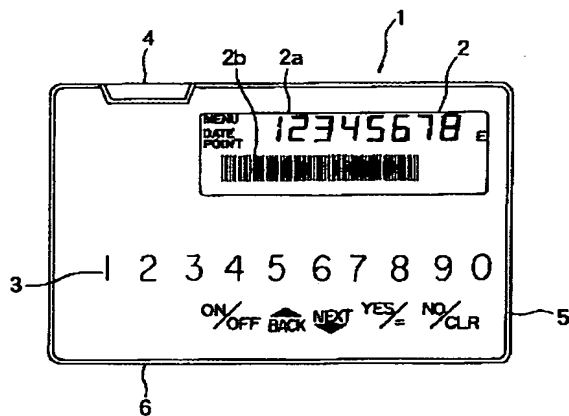
【図2】図1の信号処理機の外観構成を示す図。

【図3】図1の信号処理機の外観構成を示す図。

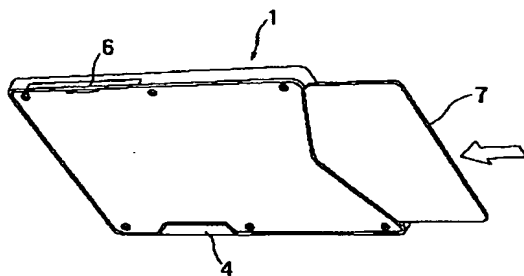
【図4】図1の信号処理機のブロック構成を示す図。

【図5】ICカードの外観構成を示す図。

【図1】



【図3】



【図6】情報受信処理を説明するための図。

【図7】信号処理機の活性化処理を説明するための図。

【図8】信号処理機の照合処理を説明するための図。

【図9】信号処理機のデータ書き込み処理を説明するための図。

【図10】信号処理機のデータ書き込み処理を説明するための図。

【図11】信号処理機のデータ処理を説明するための図。

【図12】データの読取り処理を説明するための図。

【図13】情報表示装置の構成を示す図。

【図14】情報印刷装置の構成を示す図。

【図15】信号処理機のデータ処理を説明するための図。

【図16】信号処理機の実施例を示す図。

【図17】信号処理機のさらに他の実施例を示す図。

【符号の説明】

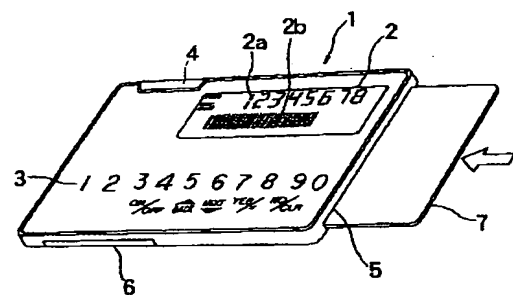
1 ……信号処理機

2 ……表示部

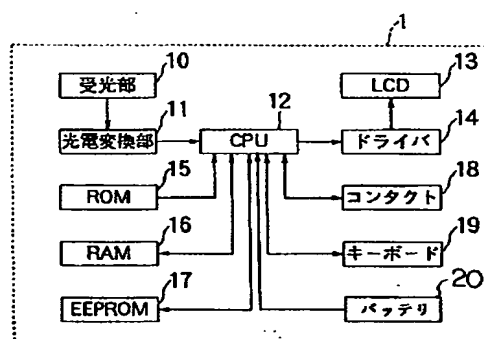
4 ……受光器

5 ……ICカード挿入口

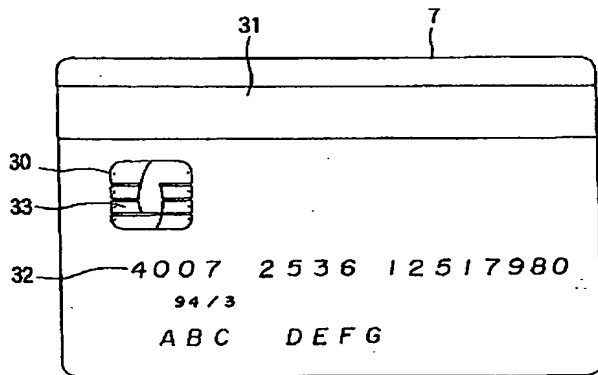
【図2】



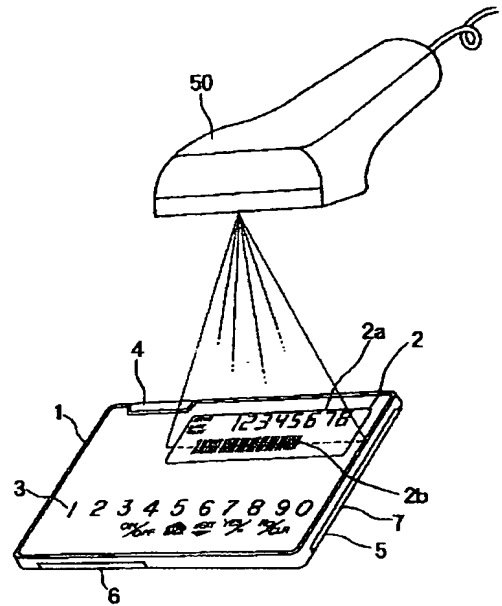
【図4】



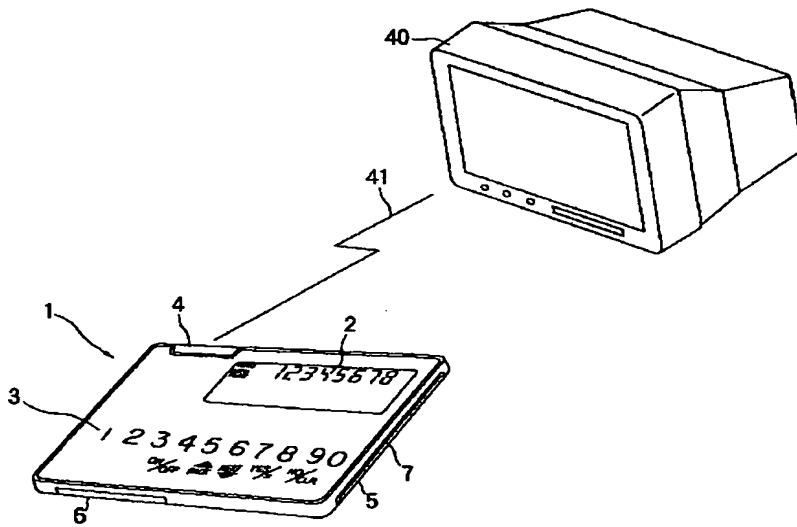
【図 5】



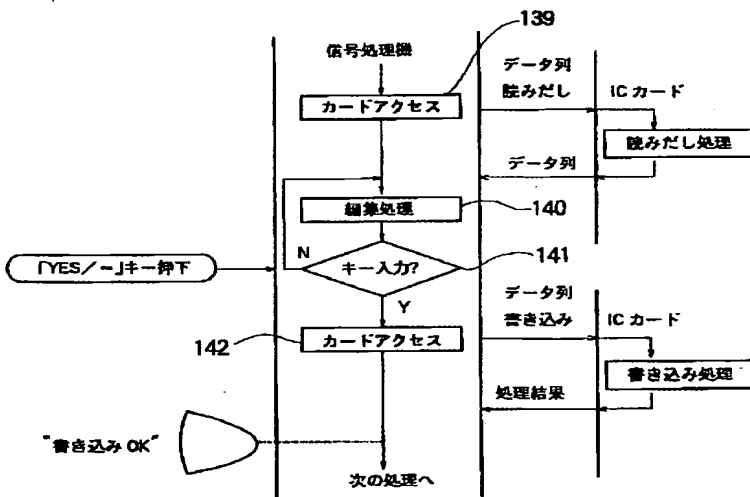
【図 12】



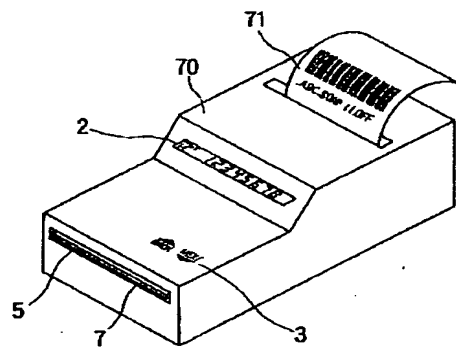
【図 6】



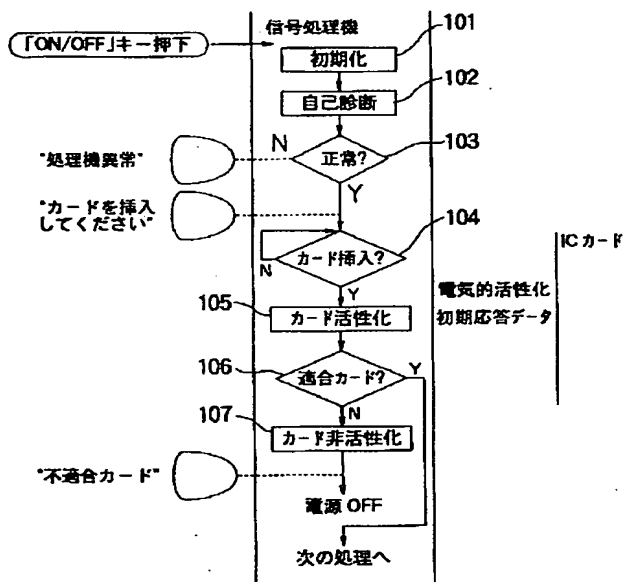
【図 11】



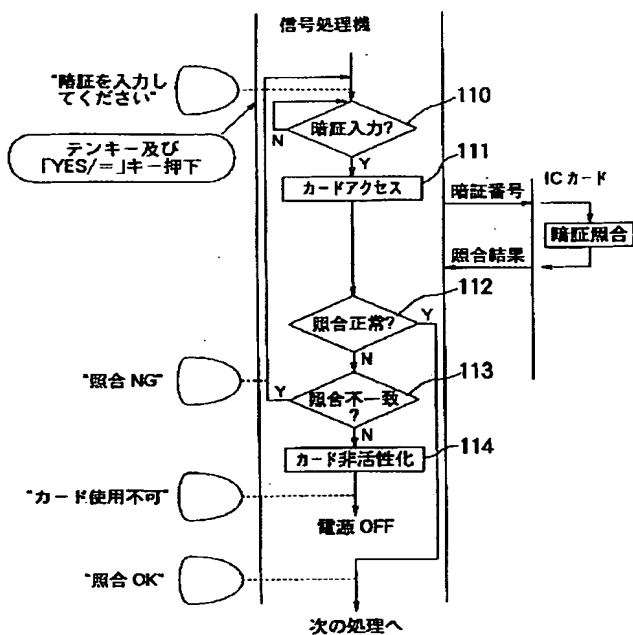
【図 14】



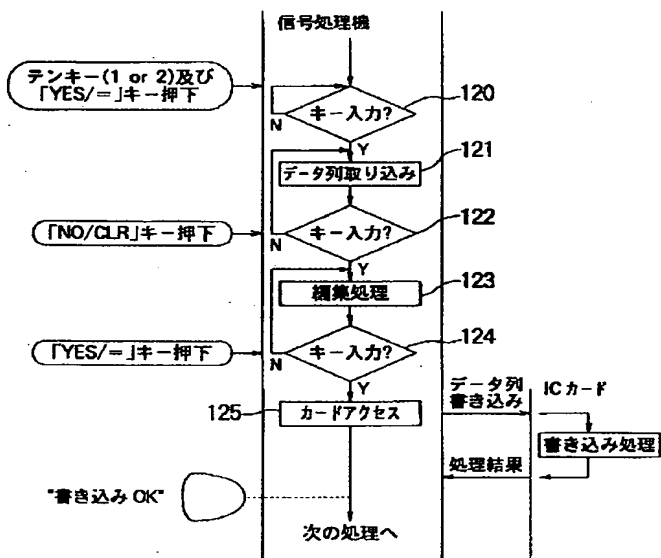
【図 7】



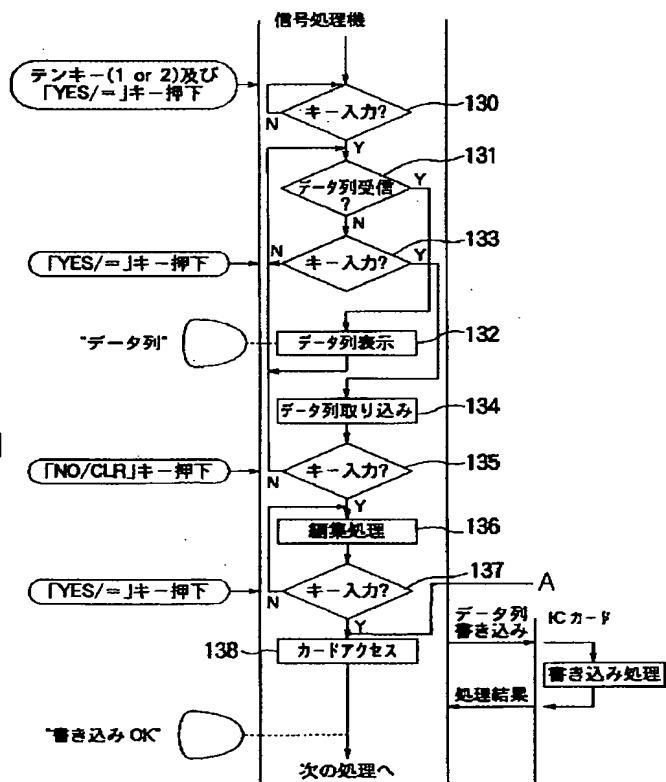
【図 8】



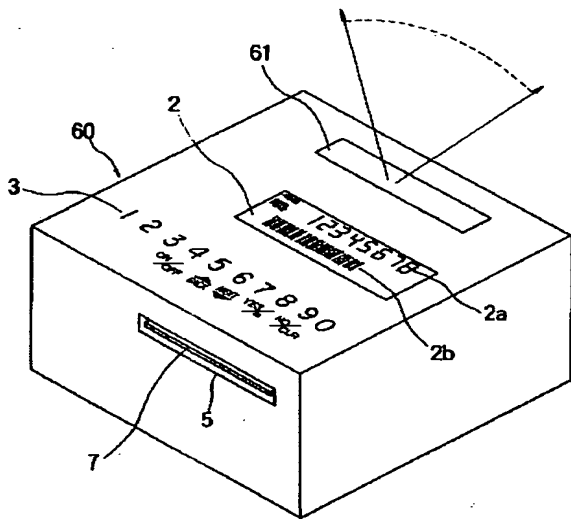
【図 9】



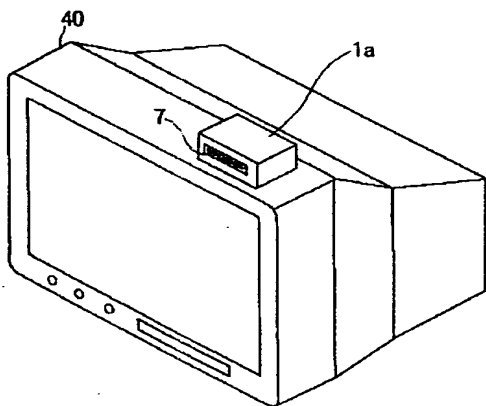
【図 10】



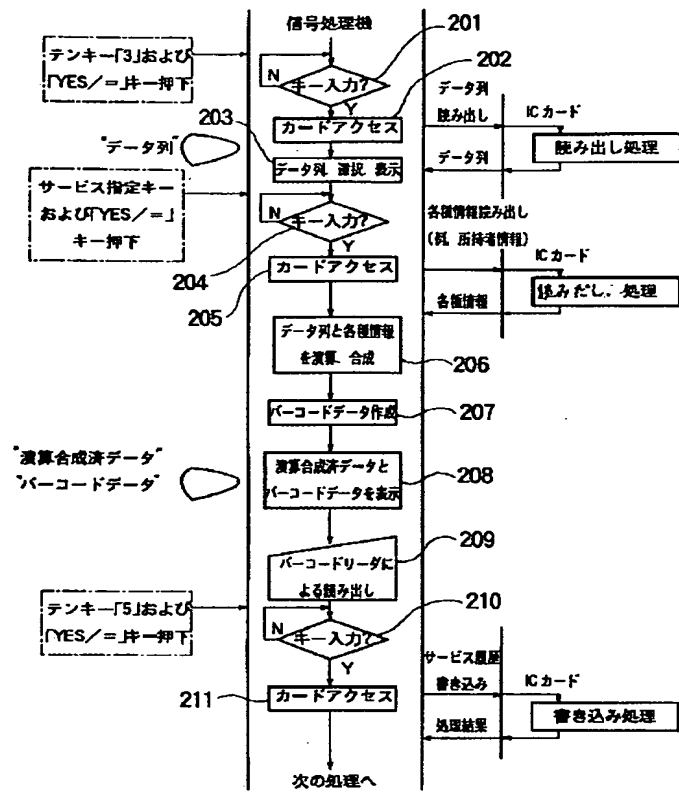
【図 13】



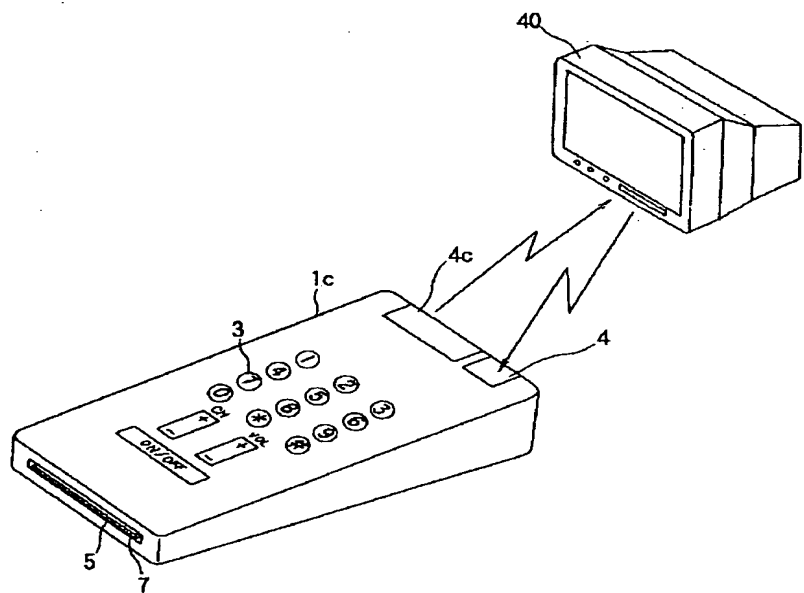
【図 16】



【図 15】



【図 17】



フロントページの続き

(72)発明者 中村 宏一郎
神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社
東芝柳町工場内